

成道会とは・・・？

成道会（じょうどうえ）（おさとりの日）（12月8日）

12月8日は、人間として生まれ、人間の幸福について悩み続けられたお釈迦さまは35歳のこの日、菩提樹の下でついに「お悟り」を開かれ 仏陀：ぶっだ（覚者）となりました。この尊い成道の日を記念して法会を「成道会」といいます。各寺院では「おさとり」を讃える法要や、行事がおこなわれます。

2500年前、釈迦は現在のネパール国境付近（インド説も）の釈迦族の王様の家に生まれる。父はシュッドーダナ、隣国の同じ釈迦族のコーリヤの執政アヌシャーキャの娘・マヤーを母として、ガウタマ・シッダールタと名づけられた。

ガウタマは母親がお産のために実家へ里帰りする途中、ルンビニの花園で休んだ時に誕生した。

生まれて直ぐ7歩歩き、左右の手で天と地を指し、「天上天下唯我独尊：てんじょうてんがゆがどくそん」天にも地にも、一番尊く大切なものは自分の命であるといったと伝えられている。その瞬間、それまで晴れていた空が、突然曇り空から「甘露の雨」が降り、白い竜が舞い降りた。とも言われています。なに不自由のない生活を送っていたお釈迦さまが、人の世が老病死の苦に満ちている ことを見抜き、そうした苦から脱出する道を求めて出家を決意したのが29歳のことです。人間として生まれ、人間の幸福について悩み続けられたお釈迦さまは、肉体を痛めつける苦行をすることで苦からの脱出の道を求めましたが、やがて、苦行では苦の問題を解決することはできないと判断し、それを中止しました。そして、やつれた体を村娘スジャータの供養した 乳粥：ちちがゆ でいやしたお釈迦さまは、大きな 菩提樹：ぼだいじゅの下で 瞑想：めいそう して、ついに「お悟り」を開かれ、仏陀となりました。35歳のときでした。この尊い日を記念して法要を営みます。

仏教の教えをあらわす3つの言葉があります。

諸行無常：しょぎょうむじょう

あらゆるものは常に変化している。

諸法無我：しょほうむが

すべては他のものとの関係によって成り立っているものであり、諸行無常の変化も、周囲との関係によって起こる。他から独立して存在するものはない。

涅槃寂靜：ねはんじゃくじょう

諸行無常・諸法無我の真理を深く自覚すれば、何事にも動じない平安な境地に達する。

お釈迦さまは、このようなことをさとる、いかにすれば、平安なところを持って生きることができるかを、「縁起：えんぎ」や「四諦：したい」「八正道：はっしょうどう」「中道：ちゅうどう」という教えで多くのお弟子さんに伝えたのです。

難しいといわれる仏教ですがお釈迦さまは、あらゆる人にやさしい言葉で、教えを説いています。その教えの一つが、浄土宗の教えでもあるのです。

津久井幼稚園では 12/8 のお釈迦様のお悟りの日を祝い「成道会」を行い、4/8 のお釈迦様の誕生を祝い、「花祭り」を行っています。

花祭りで、お釈迦様をお祭りする「花御堂：はなみどう」は、お釈迦様が誕生した、「ルンビニ」の花園を表し、お釈迦様にかける「甘茶」は、「甘露の雨」を表します。

皆様も聞いたことがある、「ルンビニ」「マヤー」は、寺院が経営する幼稚園、保育園の名前に使われることが多いです。コーヒーに使う「スジャータ」：商品名は、このお話の中から引用されています。

参考：浄土宗ホームページより

津久井浜学園 余郷有聡

「成道会」はお釈迦様がお悟りを開いた日を祝う

成道会について

成道会とは、お釈迦様が、12月8日にお悟りを開いた日。
世界中の人間の幸福について悩み続けられたお釈迦様が、
菩提樹の下で『お悟り』を開かれ、『仏陀(ぶっだ)』となられた日を表しているのです。

お釈迦様ってどんな人？

お釈迦様は、約2600年前、現在のネパールの南部にあった町・ルンビニーの美しい花が咲き乱れる「ルンビニー園」で、当時国家を形成していた王のシュッドーダナと、王妃のマーヤーとの間にシャーキャ族の王子として4月8日に誕生しました。名前は「シッダルータ」と名付けられました。

成道会ってどんなこと？

12月8日「成道会」お悟りが開かれた日であり、仏教にとってとても意義のある日なのです。
シッダルータは、何不自由なく育ちましたが、29歳の時に**全ての人が幸せに暮らすための道や、一人一人の命が尊いこと、人間の生きることや人生の真実や苦悩**などの思いを巡らして、6年間もの厳しい修行を経て、12月8日の明けの明星が光る時に、「**仏陀**」となり悟りを開かれたのです。
成道会は、仏教の教えが生まれたとても大切な日です。

成道会のお話

成道会は、お釈迦様の誕生をお祝いする日。
ここでは、簡単にお伝えします。

『おさとり』

王子がカピラのお城を出られてから、悟りを開くために色々苦しい勉強をなさい、身体もやせ細り歩くことさえも思うようにならなくなりました。
しかしある時、自分の考えが間違っている事に気付かれた王子さまは、身体を清めようと川の中に入りました。
でも、弱っていた王子さまは川から上がる力がなかったのです。
その時に、スジャータという女性が助けてくれ乳粥を王子様に差し出したのです。
それから、力を取り戻した王子さまは、川の近くの菩提樹の下に座り、勉強仲間になんとも言われようと、静かに目を閉じて「どうしたら幸せにくらせるのか」一人考え続けていました。
それを見ていた悪魔たちが、王子を邪魔しようと嵐を起こしたりしました。
けれど、王子はピクリともせず目を閉じていましたが、突然大きな声で、悪魔たちをびっくりさせたのです。
それから、何日か過ぎた日の夜明けの明星が光る時、菩提樹の下に座られていた王子様は、お釈迦様になったのです。

成道会ではどのような事をするの？

お釈迦様の前で礼拝・合掌・礼讃舞(献灯・献香)・献華・献茶・献供を行います。
お釈迦様がお悟りを開いてくれた感謝の意味を込めて、お楽しみ会や発表会、催し等を行います。

子どもに伝える、お釈迦様の言葉

お釈迦様の教えは、いくつもあります子ども達に分かりやすく簡単に伝えてあげたいですね。

- 命は一つしかないので、大事にしてください。
- 生かされている事は、自然や動物、魚や野菜からたくさんの「いのち」を頂いていきていること。
- 色々な人に感謝をすること。
- 困っている人がいたら、助けてあげられる優しい人になること。
- どんなに小さいことでも、悪いことはしません
- どんなに小さくても、良いことはたくさんします

子どもは素直に大人の意見を聞き入れます。子どもが分かるように、解釈して伝えてあげてくださいね。

仏教の教えをあらわす3つの言葉

諸行無常：しょぎょうむじょう
あらゆるものは常に変化している。

諸法無我：しょぼうむが
すべては他のものとの関係によって成り立っているものであり、諸行無常の変化も、周囲との関係によって起こる。他から独立して存在するものはない。

涅槃寂靜：ねはんじゃくじょう
諸行無常・諸法無我の真理を深く自覚すれば、何事にも動じない平安な境地に達する。

お釈迦さまは、このようなことをさとり、いかにすれば、平安なところを持って生きることができるかを、「縁起：えんぎ」や「四諦：したい」「八正道：はっしょうどう」「中道：ちゅうどう」という教えで多くのお弟子さんに伝えたのです。

難しいといわれる仏教ですがお釈迦さまは、あらゆる人にやさしい言葉で、教えを説いています。その教えの一つが、浄土宗の教えでもあるのです。

まとめ

成道会についていかがでしたか。

成道会は、古くから行われている日本の伝統行事の1つです。お釈迦様が悟りをお開きになった過程や由来を知ること、子ども達にお話をする事が出来るのではないのでしょうか。

